

保存版

地震防災計画書



霧が丘グリーンタウン第四住宅

管理組合
自治会



考える防災 みんなで減災

◆「自発的自助」の推進

大地震などの自然現象は人間の力でくい止めることはできませんが、災害による被害は、わたしたちの日ごろの努力によって減らすことが可能です。行政による「公助」に期待する面も多々ありますが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。

「自助」の第一歩は、「自分は死なない、けがをしない」ことを念頭に備えを始めることです。家族構成や生活形態がそれぞれ違うので、自助は他人にはわからない、自分たちにしかわかりません。知識を得るだけではなく、一人ひとりが『自ら自発的に考えて備える』ことが大切です。

要援護者も座して待ってはいけません。自分や家族が自宅で被災時にどう過ごすのかを想像し、室内の安全確保や支援してくださる方の確保などの準備をしておく必要があります。また、小さな子供のいる家庭では、地震時に子供が孤立しないための行動ルールを決めておくことが大切です。子供は日々成長しますので、毎年家族で話し合っ、て、家族の行動を確認しましょう。



◆ 備えの優先順位

防災をテーマにしたテレビ番組などでは、「地震への備え」というと「水や食料の備蓄に関するもの紹介」のみといっても過言ではありません。しかし、水や食料を備蓄しても死んでしまったら、大けがをしてしまったら、何の役にも立ちません。簡単にできる備えは水や食料の備蓄ですが、これで満足してはいけません。地震に備えるのにも順序があります。水や食料の備蓄を後回しにしても、命の危険を除去する対策から着手してください。備えの優先順位は以下の通りです。

- 1 命の危険、けがへの備え
- 2 避難、家族の安否確認への備え
- 3 被災生活への備え

◆ 共助で乗り越えよう

災害を一人で乗り越えることは大変なことです。ライフラインが停止し、非日常的生活が続く数日間は、居住者同士が協力し、互いに支えあう「共助」によって乗り越えなければなりません。多くの人が共同生活しているマンション特有の利点を「防災力」に活かし、組織的防災活動を行いましょう。

高齢居住者が増えても、集住のメリットをうまく活かせば、見守りや安否確認、災害時の救援など幾重もの独自のセーフティネットを構築することができます。日頃のコミュニティ活動をベースに、居住者が一体となって「自助・共助」を推進すれば、被災後の生活や復旧が円滑に進むものと思います。

もし首都直下地震が起これば、さまざまな都市機能が被災し、想像を絶する人的・物的被害が出ることは間違いありません。これまでのような被害をゼロにしようとする「防災」ではなく、被害を最小限に抑える「減災」の取り組みへの転換が必要です。自発的な自助と共助を中心とした防災活動の不断の努力こそが、自分自身と家族、居住者の皆さんを震災から守ってくれると確信しています。

防災計画書の構成

家庭編

1 今から始める家庭での備え
被害を最小限にする事前の備え

2 被災時行動マニュアル
被災時行動表(時系列)
個々の行動手順

組織編

3 平時の地震防災活動
円滑な共助活動のための日常活動

4 被災時共助活動マニュアル
被災時活動表(時系列)
個々の活動手順

資料編
(帳票等)

目 次

【家庭編】

1	今から始める家庭での備え	
	(1) 身の安全を守るための備え	1-1
	(2) 家族の被災時連絡方法の取り決め	1-1
	(3) 防災備品等の備蓄と管理	1-2
	(4) 防災意識の向上に努める	1-4
2	被災時の行動マニュアル	2-1
	被災時行動表(家庭編)	2-2
	被災時行動シート(家庭編)	2-3

【組織編】

3	平時の地震防災活動	
	(1) 防災委員会の体制	3-1
	(2) 地震防災計画書の作成及び更新	3-2
	(3) 防災訓練, 防災教育	3-3
	(4) 施設の安全対策	3-4
	(5) 在宅被災生活の支援体制	3-6
	(6) 防災資機材の整備と管理	3-10
	(7) 他組織との連携	3-11
4	被災時の共助活動マニュアル	4-1
	被災時活動表(組織編)	4-2
	被災時活動シート(組織編)	4-5

【資料編】

資料 1	【図解】 家具・家電製品の転倒・落下防止策
資料 2	「被災時に必要なもの」チェックシート
資料 3	ガスメータの復帰方法
資料 4	災害時助け合い連絡票
資料 5	安否・被災状況確認シート
資料 6	災害時 施設点検チェックリスト
資料 7	地域防災拠点 避難者一覧